

第1学年 社会科(歴史的分野)学習指導案

1 単元名 「武士の台頭と鎌倉幕府」 -武家政権の成立- (東京書籍)

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の内容(1)ウ及び(3)を受け、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させることをねらう。

中でも本小単元においては、武士の台頭から鎌倉時代の文化と宗教までを取り扱う。武家政権が始まった鎌倉時代とこれまでの時代とを比較し、違いや特徴を考えさせることで、武士の台頭から鎌倉幕府の成立の過程までを理解させることをねらう。この小単元で取り扱う内容は、これまでに学習してきた平安時代の摂関政治の中から武士が登場する土壌が形成され、武士の活躍によって天皇や貴族を中心とした政治体制が崩壊し、武士を中心とした中世社会に移行するという歴史的に大きな転換期に当たる。したがって、権力者が天皇や貴族から武士へと変化する流れをつかませ、江戸時代まで続く封建制度の特色を把握させるためにも適切な教材であるといえる。武家政権の始まりについて、多面的・多角的に考察させるために、意思決定を取り入れた討論型の学習を仕組むことで、社会科における思考力・判断力・表現力を育てる教材としたい。

- 本学級の生徒は、積極的に発表する生徒に偏りがある。意識調査では、社会科が「好き」または「どちらかという好き」という回答が多く、その理由に歴史的分野の内容に興味があることを記している。歴史的分野の学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多い一方で、「自分の意見を積極的に発表できる」や「資料の読み取り、自分の考えを書くことや説明すること」については、「できる」または「どちらかといえばできる」と回答した生徒が約4割であった。グループやペアでの活動では課題に対する話し合いが活発になる傾向があるため、小集団での学習を取り入れ発言を促したい。

今回の授業内容である武家政権の成立やその時代背景の中で活躍する平清盛、源頼朝などの人物については、関心も高く、多くの生徒がそれぞれの業績を正しく理解していた。小学校での既習事項が定着していることがうかがえる。

- 指導に当たっては、鎌倉時代が、江戸時代の終わりまでの約700年にわたる武家政権の始まりとなることから、武士が台頭していく過程を追究し、武家政権となる鎌倉幕府が成立していくことを理解させるための学習問題Ⅰと生徒が学んだ知識を関連付け、武家政権の特色についての考えを深めさせるための学習問題Ⅱを設定する。このように、単元を貫く学習問題Ⅰ、Ⅱを基に、課題を解決していく学習を仕組むことで、単元の目標に迫りたい。

そのために、まず、歴史の大きな流れを理解させる学習活動を展開させていく。その際、平清盛、源義経、源頼朝などの人物の業績について調べ、古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目してまとめさせていく。これにより、武士が台頭していく過程を捉えさせたい。次に、源平の争乱を通して、頼朝が目指した武家政権の姿や義経との考えの相違などについて考えさせ、武家政権の特色について理解させる。その際、生徒に当時の人物がどのようなことを考え行動していたのか関心を高められるように、源頼朝が源義経を追討した事象について取り上げ、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を仕組む。この中で源頼朝と義経との対立について2つの視点(御家人制度、朝廷との関係)を導き出し、意思決定を行わせる学習問題Ⅱ「武家政権にとって御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきか」を設定し、議論させる。これにより、武家政権の特色について、自分の考えを深めさせ、武士が台頭して武家政権が成立したことの理解を深めさせたい。

3 単元の目標

- (1) 武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動きについての関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとさせる。
- (2) 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったという時代の流れについて、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料を収集させ、有用な情報を適切に選択させ、読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
- (4) 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったことを理解させ、その知識を身に付けさせる。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の成長を背景とした社会や文化など中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、武家政権の特色を捉えようとするとともに、中世の文化遺産を尊重しようとする。	○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、主従関係の成り立ちなどから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ○鎌倉時代の文化について、武士や民衆の動きと関連させて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○武士が台頭し武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動きに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ○鎌倉時代の文化と禅宗の文化的な影響などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり武家政権が発展していったことを理解し、その知識を身に付けている。 ○鎌倉時代の文化や仏教の特色を理解し、その知識を身に付けている。

5 単元計画（全6時間 本時3/6）

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	【主な評価】(・)	時配
学習問題をつかむ	○武士が次第に勢力を広げたことを、関東や瀬戸内などで起こった戦乱の様子から理解する。 ○鎌倉時代は武家政権であることを確認し、学習問題Iをつくる。	○武士団では、天皇や貴族の子孫が武士の棟梁となって、家来と主従関係を結んだことを、資料から読み取らせることで、武士が台頭してきたことに気付かせる。 ○小学校での学習を振り返り、鎌倉時代が武家政権になることを確認し、学習問題Iを導き出す。	・武士のおこりと成長から武家政権の成立までの経過について理解し、その知識を身に付けている。 【知】	1
	武士はどのように台頭し、武家政権を成立していったのだろうか。 《学習問題I》			
	○平清盛の勢力拡大と平	○平氏は、朝廷との関係を深め貴族的	・源平の争乱図から	

調 べ る	<p>の争乱について調べ、平氏の政治を確認する。</p> <p>○源平の争乱について源頼朝や中心人物になった源義経の動きについて調べる。</p>	<p>な政治だったことや日宋貿易で利益を上げたことに気付かせる。</p> <p>○源頼朝は朝廷とは異なる新しい政権を成立しようとしていたことや義経は朝廷の中での出世を考えていたことに気付かせる。</p>	<p>戦局の変化を読み取っている。【技】</p> <p>・源平の争乱の際の源頼朝、義経の動きを読み取っている。【技】</p>	1
	<p>○源頼朝が目指した政治について、平清盛の政治と比較して考える。</p> <p>○源頼朝が義経を追討した史実から、武家政権の特色について考え、意思決定し、学習問題Ⅱをつくる。 (意思決定1)</p>	<p>○両者の比較の中で、御家人との関係(主従関係)、幕府のしくみづくり(武士中心の政治)の視点に気付かせる。</p> <p>○源頼朝と義経の対立について、両者の言い分を整理することで、対立点を明らかにし、意思決定を迫る。</p> <p>○判断が分かれたことを確認し、学習問題Ⅱへと導く。</p>	<p>・武家政権にとって、御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきかについて、自分の考えを適切に表現している。【思】</p>	1 本 時 (3/6)
<p>論題 武家政権にとって、御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきか。《学習問題Ⅱ》</p>				
考 え ・ ま と め る	<p>○学習問題Ⅱについて、自分の考えを基に、他の考えの生徒と討論を行う。</p>	<p>○学習問題Ⅱについて、考えの根拠に着目させ、討論を行わせる。これにより、根拠となる史実と理由付けとの関係を吟味させ、思考の深まりと知識の定着を図る。</p>	<p>・学習問題Ⅱについて、討論の内容を基に自分の考えを見直し、最終的な考えを根拠を明らかにして適切に表現している。【思】</p>	1
	<p>○学習問題Ⅱについて、討論の内容を基に、2度目の意思決定を行う。 (意思決定2)</p> <p>○鎌倉時代の武士の生活の様子を様々な資料を通して理解する。</p>	<p>○討論の内容を基に、自分の考えを見直し最終的な意思決定をさせることで、考えの深まりと歴史的事象への関心の高まりをねらう。</p> <p>○武士の生活が、貴族とは違っており、武芸中心の質素な生活だったことを資料から読み取らせる。</p>	<p>・武士は、常に戦に備えていたこと、質素な生活であったことを読み取っている。【技】</p>	1
	<p>○鎌倉時代の建築物、彫刻、文学作品などについて調べ、鎌倉文化の特色を理解する。</p> <p>○仏教の特色を理解し、広まった理由について考える。</p>	<p>○鎌倉時代の文化が、武士の台頭の影響を受けていることに気付かせるために、共通点として力強さや写実的であることから考えさせる。</p> <p>○鎌倉仏教が、現在も広く信仰されている理由を考えさせることで、民衆に広まっていった理由を理解させる。</p>	<p>・鎌倉仏教が多くの人々の心を捉えて広まったことや鎌倉時代の文化が力強く写実的なことについて、社会の動きと関連付けて考察し、適切に表現している。【思】</p>	1

6 本時の目標

源頼朝が弟義経を追討した史実から、武家政権にとって、御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきかについて、自分の考えをもち、適切に表現することができる。

7 展開(全6時間 本時3/6)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】									
<p>1 学習問題Iのまとめとして、平清盛と源頼朝との業績を比較し、本時のめあてをつくる。</p> <table border="1" data-bbox="167 548 686 694"> <tr> <td style="text-align: center;">平清盛</td> <td style="text-align: center;">源頼朝</td> </tr> <tr> <td>今まで通り朝廷の官職をもらい、そのしくみの中で政治を行う。</td> <td>武士中心の新しい政治のしくみをつくる。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・一族での政治 ・官職をもらう ・御恩と奉公 ・幕府のしくみ 	平清盛	源頼朝	今まで通り朝廷の官職をもらい、そのしくみの中で政治を行う。	武士中心の新しい政治のしくみをつくる。	<p>○平清盛と源頼朝の業績を比較させ、平清盛の政治を一言で表させる。これに対して、源頼朝が目指した政治について問い掛け、学習のめあてへと導く。</p> <p>○武家政権の特色ついて考える視点とするために、源頼朝の業績として、御恩と奉公、鎌倉幕府のしくみに触れておく。</p> <p>○源頼朝の業績から、目指した政治について「武士中心の政治」と言い表せることが予想されるが、どのような政治かを問い直すことで、学習のめあてを導き出す。</p>					
平清盛	源頼朝									
今まで通り朝廷の官職をもらい、そのしくみの中で政治を行う。	武士中心の新しい政治のしくみをつくる。									
<p>めあて 源頼朝がめざした武家政権について考えよう。</p>										
<p>2 平氏滅亡後の頼朝と義経の対立を知り、頼朝がつくりたかった「御家人との関係」、「幕府のしくみ」を視点に考察する。</p> <table border="1" data-bbox="151 1064 694 1198"> <tr> <td> 社会的な問題 (研究や論争の材料となる事件) 「頼朝が義経を追討したこと」 </td> </tr> </table>	社会的な問題 (研究や論争の材料となる事件) 「頼朝が義経を追討したこと」	<p>○源頼朝と同様に、生徒がよく知っている源氏として、源義経を引き合いに出し、なぜ、頼朝より義経が有名なのかを問う。これにより、頼朝と義経の関係に興味をもたせ、頼朝と義経の対立を提示する。</p> <p>○なぜ、対立しているのかを読み取ることができるように、頼朝、義経の言い分を吹き出しとして示すことで、内容に着目させる。</p>								
社会的な問題 (研究や論争の材料となる事件) 「頼朝が義経を追討したこと」										
<p>3 頼朝と義経の対立について、考察したことを基に整理する。</p>	<p>○頼朝の言い分、義経の言い分について、視点ごとに整理し、対立点が、武家政権にとって大切にしていることの違いであることを捉えさせる。</p>									
<p>予想されるワークシート及び板書例</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center;">義経</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">視点</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">頼朝</td> </tr> <tr> <td>○ ほうびをもらうのが当然</td> <td>主従関係</td> <td>命令に従うことが一番</td> </tr> <tr> <td>△ 朝廷との関係を維持する</td> <td>しくみ</td> <td>武士中心の政治</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"> 御家人との関係 ⇔ 幕府のしくみづくり </p>		義経	視点	頼朝	○ ほうびをもらうのが当然	主従関係	命令に従うことが一番	△ 朝廷との関係を維持する	しくみ	武士中心の政治
義経	視点	頼朝								
○ ほうびをもらうのが当然	主従関係	命令に従うことが一番								
△ 朝廷との関係を維持する	しくみ	武士中心の政治								
<p>4 今日の学習を振り返り、自分ならどちらを大切にするのかを考える。 (意思決定1)</p>	<p>○史実、頼朝は義経を追討してしまったが、この考察から頼朝の葛藤が予想されることを伝え、「あなたが頼朝なら、義経を追討するか」問い掛けることで、意思決定をさせる。その際、学習のめあてに立ち戻らせ、武家政権にとって大切にすべきことを「御家人との関係」と「幕府のしくみづくり」とで比較させる。</p> <p style="text-align: right;">【評価】</p>									

5 考えの違いから、学習問題Ⅱをつくる。	○それぞれの判断について問い掛けることで、判断が分かれたことを確認し、それぞれの判断理由を聞きたい、違う判断の生徒へ言いたいという思いを出させる。これにより、学習問題Ⅱへと導き、次時に向けて調べたいことがないかを問い、討論への意欲付けとする。
論題 武家政権にとって、御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきか。 《学習問題Ⅱ》	
6 次時の学習について確認する。	○学習問題Ⅱについて討論することを伝え、調べておきたいことを記述させ、本時をまとめる。

8 本時の評価

本時の 評価規準	源頼朝が弟義経を追討した史実から、武家政権にとって、御家人との関係、幕府のしくみのどちらを大切にすべきかについて、自分の考えをもち、適切に表現することができる。 (社会的な思考・判断・表現)		
判定基準 (判断のめやす)	「十分満足できる」状況(A) 武家政権にとって大切にすべきことについて、1つ以上の視点から意思決定し、調べたいことや必要な資料についても加えて記述している。	「おおむね満足できる」状況(B) 武家政権にとって大切にすべきことについて、1つ以上の視点から意思決定し、自分の考えを記述している。	「努力を要する」状況(C) (B)に達していない記述
→(B), (C) と判断した児童への支援策		→他に何が分かれば、自分の考えの説得力が高まるのかを考えさせ、記述させる。	→板書を基に武家政権の成立を振り返らせ、意思決定した理由を記述させる。
評価方法	ワークシートの記述		